平成21年2月6日

各 位

上場会社名　澁谷工業株式会社
代表者　代表取締役社長 澁谷　弘利
（コード番号　6340）
問合せ先責任者　常務取締役社長室長兼経理本部長 吉道　義明
（TEL　076-262-1201）

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年12月3日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

（金額の単位：百万円）

平成21年6月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正（平成20年7月1日～平成20年12月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	20,500	△1,050	△1,080	△1,100	△40.71
今回発表予想(B)	19,937	△850	△971	△1,917	△70.95
増減額(B-A)	△562	199	108	△817	―――
増減率(%)	△2.7	―	―	―	―――
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年6月期第2四半期)	21,290	14	△21	△302	△11.41

平成21年6月期通期連結業績予想数値の修正（平成20年7月1日～平成21年6月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	52,500	770	670	△60	△2.22
今回発表予想(B)	48,000	250	70	△1,280	△47.37
増減額(B-A)	△4,500	△520	△600	△1,220	―――
増減率(%)	△8.6	△67.5	△89.6	―	―――
(ご参考)前期実績 (平成20年6月期)	53,232	1,948	1,703	303	11.34

平成21年6月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正（平成20年7月1日～平成20年12月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	14,800	△980	△760	△770	△28.49
今回発表予想(B)	14,266	△1,055	△930	△1,917	△70.96
増減額(B-A)	△533	△75	△170	△1,147	―――
増減率(%)	△3.6	―	―	―	―――
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年6月期第2四半期)	17,664	130	194	△43	△1.65

平成21年6月期通期個別業績予想数値の修正（平成20年7月1日～平成21年6月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	39,500	400	700	70	2.59
今回発表予想(B)	36,000	△340	△130	△1,450	△53.66
増減額(B-A)	△3,500	△740	△830	△1,520	―――
増減率(%)	△8.9	―	―	―	―――
(ご参考)前期実績 (平成20年6月期)	43,297	1,408	1,378	260	9.73

修正の理由

（1）第2四半期累計期間

連　結

連結の当第2四半期累計期間における売上高は、第3四半期以降にずれ込んだ案件があったことから19,937百万円と前回予想に比べ2.7%減少しました。

利益面では、連結子会社の業績が向上したことから、営業損失は850百万円(前回予想営業損失1,050百万円)、経常損失は971百万円(前回予想経常損失1,080百万円)と前回予想に比べ損失額は減少しましたが、時価のある「その他有価証券」の回復可能性を検討した結果、投資有価証券評価損1,253百万円を特別損失に計上したことから、四半期純損失は1,917百万円と前回予想(前回予想四半期純損失1,100百万円)に比べ大幅に増加しました。

個　別

個別の当第2四半期累計期間における売上高は、連結と同様な理由により14,266百万円と前回予想に比べ3.6%減少しました。

利益面では、売上高が未達となったことから、営業損失は1,055百万円(前回予想営業損失980百万円)、経常損失は930百万円(前回予想経常損失760百万円)となりました。更に時価のある「その他有価証券」の回復可能性を検討した結果、投資有価証券評価損1,227百万円、また、子会社株式評価損144百万円および子会社に対する債務保証損失引当金繰入89百万円を特別損失に計上したことから、四半期純

損失は1,917百万円と前回予想(前回予想四半期純損失1,100百万円)に比べ大幅に増加しました。

（2）通期
連結の業績予想に関しましては、第2四半期以降の急激な景気後退による客先の設備投資の先き延ばしなどの影響を受け、通期の連結売上高は48,000百万円、連結営業利益は250百万円、連結経常利益は70百万円と前回予想に比べそれぞれ8.6%、67.5%、89.6%の減少を見込んでおります。さらに特別損失に当第2四半期末と同額の投資有価証券評価損を織り込んでいることから、連結当期純損失は1,280百万円と見込んでおります。
また、個別の業績予想は連結と同様な理由により、売上高は36,000百万円と前回予想に比べ8.9%の減少を見込んでおり、営業損失は340百万円、経常損失は130百万円、当期純損失は1,450百万円と見込んでおります。

（注）通期の予想数値は当社が入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以　上